

レポートに

あたつて

近年、少子・高齢化が進行し、二十一世紀には高齢社会に移行するといわれています。地域の社会福祉は行政に頼るだけでなく、地域の人々の協力によって確立しなければと考へ、市社会福祉協議会を訪ね、福祉弁当を担当している小野係長さんと渡辺さんに、福祉弁当を始めるに至った経緯について伺いました。

この福祉弁当一つだけとってみると小さいのですが、福祉弁当に地域の住民が参加することで、ふれあい、助けあい、思いやりのある地域が生まれます。こうして、地域で暮らしている一人暮らしのお年寄りやお年寄りのいる世帯、障害者が安心して暮らせる住みよい地域作りに役立つことから、福祉弁当を始めることにしたそうです。

長木地区の 食事サービス

長木地区は平成五年に市社会福祉協議会から「手作り食事サービス」のモデル地区に指定さ

れました。準備のために地域の民生委員や各種団体の代表者による会議が何回も開かれ、大館保健所からは食品衛生についての講習会を開いていただきました。また、福祉弁当の先進地である小坂町や



リポーター
三浦光子さん
(上代野)

青森県の鱈ヶ沢町で研修・視察を行い、平成六年四月から実施しました。

最初は長木公民館で十五人分、水交苑で十人分、大館園で十人分のお弁当を調理、配食していましたが、今では水交苑ですべてを行っています。

お弁当は月三回、火曜日の夕食として届けられており、利用者は三十五人です。盛り付けと配食、回収は「結っ子の会」十八人で行い、運転のボランティアは民生委員、地域のかた、商店、大館製作所、デイサービス「野ぎく」などの協力をいただいています。利用料金はお弁当と交換でいただいています。



矢立地区では平成七年七月から実施しています。月四回、木曜日の夕食として届けられ、利用者は十二人です。活動の拠点は大立育成園の調理場・食堂で盛り付けボランティアは矢立婦人会(十二支部)の五十三人。配食・回収と運転ボランティアは民生委員、地域のかた、白沢通園センター、中学生、東北電力の協力をいただいています。利用料金は毎月末日に民生委員が一カ月分をまとめて集金するということです。

矢立地区の 食事サービス

福祉弁当は地域と家族の きずなを深めます

矢立地区のリーダーの若狭さんと栄養士さんからお話を伺いましたところ、食事サービスは婦人会が主体となり、公民館の運営審議会や各町内に参加を呼びかけて実施され、民生委員、小中学生、矢立育成園、公民館、東北電力の協力をいただいているとのこと。中には、おばあちゃんとお母さんは盛り付け、おじいちゃんが運転、お子さん

地域福祉 活動の状況 について

～福祉弁当サービスを例に～